

# 周術期の口腔ケア

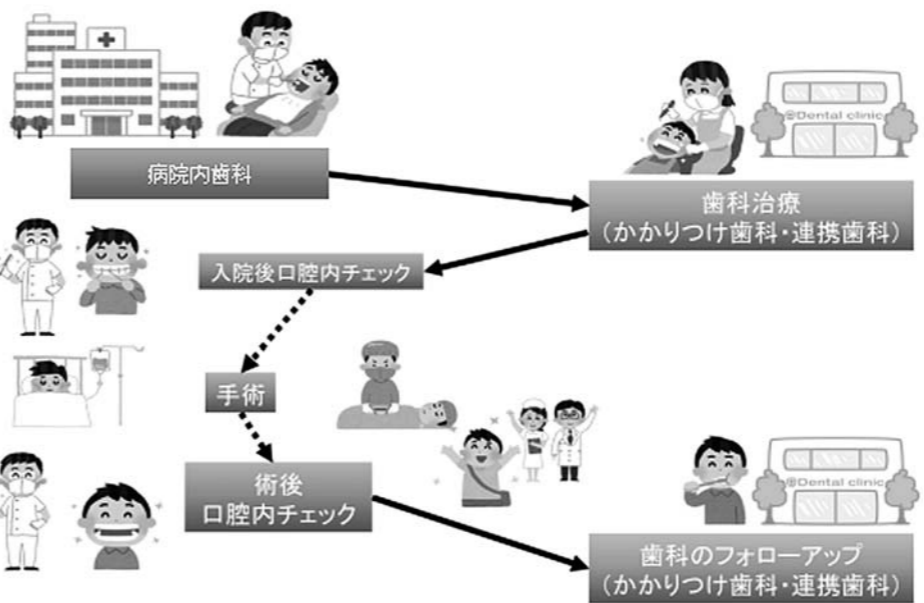
4月18日「よい歯の日」

「周術期」という言葉、聞き慣れない方も多いと思いますが、手術が必要となる治療の、術前、術中、術後（回復期）の、一連の期間のことを指します。

歯に付着する菌垢中の菌の濃度は大便と同等と言われています。一般的に手術を受けると身体の抵抗力が落ちやすく、合併症を発生しやすくなります。口腔内が汚れている状態であれば、その危険性はより高くなります。いくつか例を挙げると、

1. 全身麻酔の際、呼吸のチューブを気管に入れる時に、口腔内の細菌も一緒に気管へ入り、肺炎にかかってしまう。
2. 病気等で嚥下（飲み込み）機能が弱くなっていると、食道へ行くはずの唾液が気管へ入り、唾液中の細菌が原因で誤嚥性肺炎を起こす。
3. 歯周炎（歯槽膿漏）で炎症を起こした歯茎から細菌が血液中へ入り全身を巡ることで感染症にかかりやすい。
4. 抗がん剤や放射線治療で、口腔内の粘膜に炎症を起こすことがあるが、口腔内細菌が多いと、その炎症が重症化しやすい。

それらの予防として、手術前から十分な口腔ケアを行い、手術時には口腔内の細菌をできるだけ少なくしておくことが大切です。



周術期口腔機能管理のイメージ

(關岡地区歯科医師会)